

沖縄旅行と飛行機初チャレンジ報告

※2012年の沖縄旅行の原稿です。

米田進一

昨年の春から沖縄に行こうという計画案が挙がり、去る3月13日～15日の2泊3日間で、今回の旅行にはベテランの宮野さん、頸損になってから初めて沖縄旅行となる土田さん、米田が行ってきました。この旅行は“飛行機に乗ることが出来るか？”が最も重要なポイントで、数回に分けて準備や話し合いも行ってきました。旅行する約1ヶ月位前から旅行代理店の担当者や、航空会社との連絡のやりとりがとにかく大変でした。何が大変かと言うと、車椅子に加え、更に自分は呼吸器を使用しているので、呼吸器の詳細を一から説明すると共に、呼吸器本体を扱うメーカーや製造元に飛行機に搭乗する際、呼吸器自体が気圧に耐えられるかどうかなど確認した上で、なおかつ医者

の診断書（搭乗日の2週間前）を事前に提出して、ようやく飛行機に乗れる許可が下りました。旅行日当日、9時過ぎに神戸空港に着くと、皆さんが係員に機内への乗り込みの段取りや移乗方法の説明を受け、車椅子は荷物庫に預けるため、梱包方法や取り扱い方を指示しました。自分達は乗り込む時間が掛かるため、出発する約40分前から準備を始めました。搭乗口付近までは自分の車椅子で行けるのですが、その先は空港用の車椅子に乗り換えないとはいけません。移乗に使うシートネットを数人で抱えてもらい、専用の車椅子に移りました。ただ、その車椅子は背もたれ部分がなく、僕は上半身を支えてもらわなければ倒れてしまうので、介助者一人に後ろから頭を支えてもらいました。ここからは座席シートに座るまで呼吸器を外して舌咽頭呼吸（カエル呼吸法）を開始します。機内に入ると進行方向とは逆に後ろ向きで座席シートの真横に車椅子を横付けし、そこからシートネットで身体を持ち上げ、座席シートへ座るまでに約5分以上掛かりました。一旦呼吸器で呼吸を整え、座ってからもシートベルトの固定や、膝が前席に当たらないように毛布などで保護したり、非常時に備えてアンビューバッグ（手動式人工蘇生呼吸器具）を膝の上に置いたり、呼吸器を置くスペースを指示したり、膀胱路の管が

折れないよう確認したり、とても神経を使いました。



機内の様子

自分達が着席完了してから他の乗客が乗ってくるため、出発するまで更に時間が掛かりました。予定時刻よりおよそ5分遅れで離陸しました。加速する時に多少腹圧が掛かった程度で、心配するほど体調が変化しなかったことに僕自身が驚きました。上空に差し掛かると耳鳴りも若干あるくらいでした。座席の目の前のモニターには、機体下のカメラが撮影した景色が映されていて、雲や明石海峡大橋、四国本土、沖縄本島を見られたことはとてもインパクトがありました。モニターには到着予定時刻に加え、高度10920メートルや、外気温マイナス40度との表示が出ていました。着陸する前に強風で機体が揺れましたが、離陸から1時間半後、沖縄に無事上陸しました。搭乗ゲートに着くと乗客が降りてから自分達が空港用の車椅子に移乗し、ロビーまで数人掛かりで移動しました。身体の下に敷いてあるシートネットが大きくずれていたため、待合室の長椅子へ寝かせてもらい、シートネットを敷き直し、自分の車椅子を持ってきてもらい移乗しました。若干首が痛かったので、介助者にマッサージをしてもらい一呼吸ついてから移動しました。連絡通路からエレベーターで1階出口フロアまで行き、外に出ると曇り空で肌寒かったです。レンタカーの場所まで行くと、2台頼んでいたうちの1台はすでに来

ていましたがもう1台がなく、レンタカー会社に確認したところ、不手際があったのかリフト付きではないワゴン車が来ました。これでは乗れないので、再度介護車両を探してもらい、とりあえず1台に全ての荷物を積み込み、介護車両が来るまでの間、空港内にある「A&W」というお店のハンバーガーをテイクアウトし、1階のフロアの待合ベンチで昼食を済ませました。結局介護車両が到着したのは15時半を回っていたため、観光予定だった「美浜アメリカンビレッジ」には行けず、空港からホテルへ直行するという残念な結果になりました。ホテルにチェックインし、部屋に入ると広々としていて、ベランダからは青い海が一望できました。



沖縄の青い海



海を背にハイチース

一息ついてから夕食に出掛けました。ホテルから約40分掛けて那覇市に戻ってきた所にある、宮野さんが行きつけのステーキハウス「ビッグハート美里店」というお店でお薦めのステーキを堪能しました。ホテルに戻ったのが22時頃、ベッドに移乗したのが22時半、就寝は23時過ぎと思っ

たよりハードスケジュールな1日となりました。

2日目、7時起床。7時半頃にリフターで車椅子に移乗し、朝食に向かいました。朝食はホテル内の「シーサイドレストラン谷茶ベイ」というバイキング形式で、目の前は海が見え、車椅子でも悠々とした広い場所でした。部屋に戻り、9時頃から約2時間かけて、排便を済ませました。11時過ぎから外出する準備をはじめ、11時半頃レンタカーに乗り込み、美ら海水族館に向かいました。ホテルから美ら海水族館までは約65km離れているそうです。途中、「きしもと食堂」で沖縄名物のソーキそばを食べ、13時半頃に水族館に着きました。



沖縄県の中心部にある海洋博公園

海岸沿いの広い土地で、伊江島が手の届きそうな距離に感じられました。天気は曇り空でしたが、館内に入れば、観光客がとても多く、進路を進む度に、展示物が見えないこともあり。約30分かけて進んで行くと、ジンベイザメが見える巨大な水槽が見え始め、ちょうど餌やりをするという館内放送があり、従業員が誘導してくれ、高さ8.2m、幅22.5mもある巨大なアクリルパネルの正面付近まで進んで行けました。14時になるとジンベイザメが海面上付近を泳いでおり、飼育員が餌を投げられると三匹のジンベイザメが大きな口を開けて飲み込む姿がとて迫力がありました。三匹とも所定の位置があるのか同じ場所で餌を食べていました。その中の一匹は立ち泳ぎをしていたのも驚きでした。



ジンバイザメ食事中

餌やりが終わり館内を20分かけ外に出て、海岸沿いにあるイルカショーを見に行きました。天気も曇り空から風が強くなってきてとても寒くなり、持参したカイロを貼りました。ショーが始まると6頭のイルカが見事な演技をして観客を沸かせました。ショーが終わり燦々と館内へ向かいました。約2時間半美ら海水族館を堪能しましたが、その後に予定していた「古宇利島スピリチュアルパワースポットツアー」は悪天候のため断念し、ホテルでゆっくり寛ごうと美ら海水族館を後にしました。



美ら海水族館

ホテルに着くと17時前でした。夕食まで部屋で時間をつぶし18時半くらいからホテル内にある琉球料理のバイキングで夕食を済ませました。20時45分頃に2階特設ステージで「琉球舞踊」と「エイサーの夕べ」というイベントがあり、観客

も大勢集まって一緒に踊っていました。約30分間のイベントでしたが、迫力も熱気も凄かったです。その後部屋に戻り就寝しました。

最終日7時起床。この日も7時半から車椅子に移乗し、8時頃朝食へと向かいました。朝食後部屋に戻り荷物をまとめ、簡易型リフトを片付けて9時にホテルをチェックアウトしました。ホテルの前で記念撮影をしました。写真を撮ってくれたのはホテル従業員の具志堅さんという方でした。

(笑) 介護車両に乗り込み、いざ首里城へ。11時頃に首里城に到着すると、さすが世界遺産というべきか沢山の観光客で駐車場もいっぱいでした。車から降りてエレベーターで玄関口まで上がりました。首里城で車椅子が通れる場所を選びながら先へ進んで行くと、階段があるので昇降機を使い2階へ上がれる場所やエレベーターを使って上がる場所など様々な工夫がなされていました。



階段昇降機

途中にあるスロープの場所で宮野特攻隊長を先頭に土田戦隊若頭、米田呼吸器大佐と順に並んで写真を撮ったら、まるで車椅子軍団のパレードに見えたのは私一人かも知れません。



車椅子軍団パレード

首里城正殿の前で記念撮影をして、レストラン「首里杜(すいむい)」で三枚豚丼を食しました。時刻も 14 時を回り、空港でお土産を買うことも時間に入れておかないといけないため、首里城を後に移動しました。



首里城前で記念撮影

那覇空港に着くと荷物を集めて交代しながらお土産を買いに行きました。待っている間に、殆どの便が遅れだし自分達が乗る飛行機も大方 40 分遅れとなり、搭乗する準備のゆとりができ、那覇空港用の車椅子は背もたれが付いていて、移動するまでの時間はリクライニングすることが出来たので、行きよりも帰りの方が楽でした。空港によって車椅子の所有するタイプも異なることを知ったのは収穫でした。



那覇空港用車椅子

ようやく搭乗する時間となり自分達が先に入って行くと、搭乗口付近でまた背もたれがない車椅子に乗り換えさせられ行きと同様、後ろ向きで座席横まで行き、移乗の前にお借りしたロホクッションを座席に敷き、そこから介助者と航空会社のスタッフと共にシートネットを持って移乗、膝

元を毛布でカバーしてシートベルトで固定し、念のためアンビューバックを膝上に置き、万全な体制で後は離陸を待つのみでした。約 20 分後那覇空港を出発。神戸空港に着いたのは 21 時前でした。神戸空港に着くと先に乗客が降りていき僕達は一番最後で降りました。シートネットが身体に殆ど掛かってない状態だったので、とりあえず自分の車椅子に移乗してから、急務室を開けてもらい、ベッドに横たわりシートネットを整えてからやっと帰れる状態となりました。ロビーで最後の集合撮影をして、みんなと挨拶を交わせ、そこでお開きとなりました。2 泊 3 日の沖縄旅行はハプニングもありましたが、とても楽しかったです。



最後に記念撮影

最後に今回の旅行で感じたことは、初めて飛行機に乗ってみて短時間のフライトであれば座席シートに座ることも一つの選択肢として有りだと思ってくれるけれど、同じ姿勢は首も痛くなったし、もし海外に行く時に長時間は身体的に厳しいと思うので、座席もリクライニングが出来るプレミアムシートやストレッチャーを体験してみたいと思います。特に移乗方法の説明することが大変だったけど、航空会社もいろんな障がい当事者が団体で旅行しようと計画し飛行機を利用する際に、もっと対応できるようにしてもらえれば、重度障がい者でも気兼ねすることなく、いろんな場所に行くことも可能になるのではないのでしょうか。